

新宿連絡会

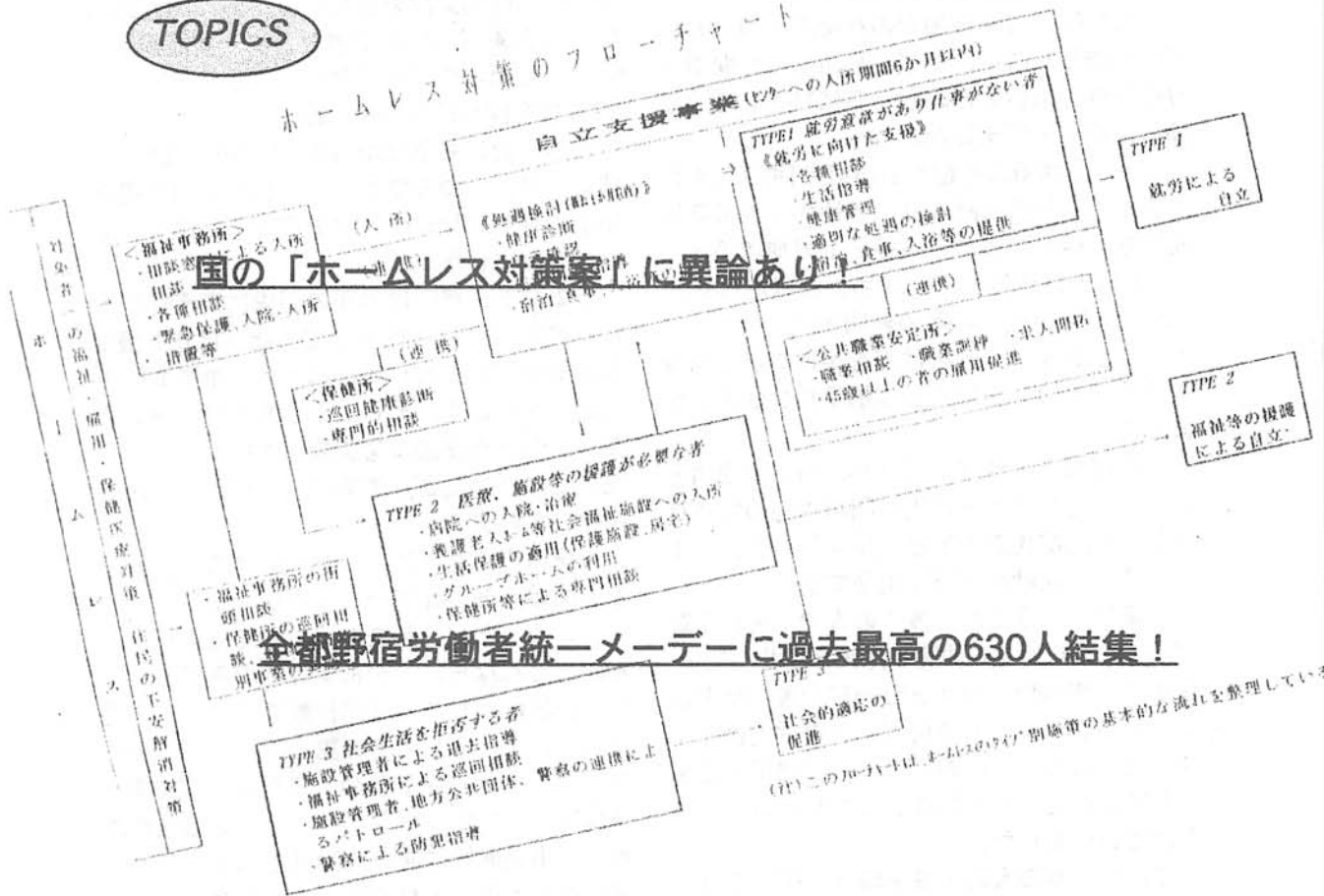
NEWS

vol.11 1999/6/22

(別紙)

TOPICS

ホームレス対策のフローチャート



定価：100円

新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議・発行

東京都台東区日本堤1-25-11 山谷労働者福祉会館気付

TEL: 03-3876-7073/090-3818-3450 E-mail: inaba@jca.apc.org

<http://www.jca.apc.org/nojukusha/shinjuku/>

カンパ送り先：郵便振替口座 00170-1-723682 「新宿連絡会」

闘いの現場から

全都メーデーに過去最高の結集！

5月1日の第5回全都野宿労働者統一メーデーは、過去最大の630名が結集し、文句のない大成功をおさめることができました。地元・新宿の仲間も全体のほぼ二人に一人にあたる過去最高の312人が集まり、仲間の長い長い行列が新宿の街を席捲しました。

この日は、行動参加者のための昼飯（弁当）を作るために、早朝から新宿の仲間が山谷に行き、山谷の仲間とともに16釜の飯を手際よく炊き上げました。

正午前、300人を超える新宿の仲間が会場である柏木公園に陣取り、各地から集まる仲間たちを迎えました。山谷・上野地域から100名以上、池袋から約50名、渋谷からも約70名と、昨年以上の数の仲間が「ワッショイ、ワッショイ」の掛け声をかけながら登場すると、そのたびに大きな拍手が沸き上がりました。

新宿連絡会、渋谷のじれん、山谷争議団・反失実、そして今年に入り団結を強めてきた池袋の仲間が代表でアピールを行ない、いよいよ都庁に向けたデモに出発です。

土曜日ということで多くの人でにぎわう新宿の街を、630人の仲間の行列が闊歩していきます。思い思いのメッセージを書いたダンボールのプラカードを掲げ、「自立支援センターを一日も早く開設しろ！」「屋根と仕事をかちとるぞ！」というシュプレヒコールを上げていきました。

この日、西の大阪・釜ヶ崎メーデーでは、1000名の仲間が集ったということです。厳しい状況だからこそ団結した闘いが必要だということを各地の仲間は知っています。今回のメーデーを機に、野宿から脱する対策を求めていく仲間の団結は、さらにひと回り大きなものへと変わったと言えます。

☆第5回全都野宿労働者統一メーデー☆
〈各地からの結集〉

新宿312名、渋谷74名、山谷67名、上野51名、池袋46名、東京駅18名、寿日雇労働者組合（横浜）12名、その他支援の仲間50名、計630名。

自立支援事業早期実施を 都区に迫る！

メーデーの成功を糧に全都実（全都野宿労働者統一行動実行委員会）は、5月27日と6月11日に台東区（自立支援センター開設候補区）との団体交渉を行ない、東京都とも5月28日に交渉を行ないました。

どの行動にも全都から約200名の仲間が集結めかけ、いつまでたっても自立支援事業を開始できない行政のモタモタぶりに怒りの声をぶつけました。

その結果、都区は仲間の要求に突き動かされる形で6月4日、休眠していた「自立支援事業要綱策定委員会」を再開させ、事業要綱を内定させました。そしてようやく既存施設を使つての自立支援事業実施（本格センター開設までの「つなぎ」事業）に向けた動きが本格化しています。

台東区や東京都は「23区内の温度差」が事業の開始を遅らせていると釈明をしています。こうした言い訳を許すわけではありませんが、それなら、と全都実はこの両者だけでなく各区に対しても要求行動を行なうことを決めました。そしてその第一弾として、6月18日、「要綱策定委員会」の副委員長である練馬区に対して、早急に各区の間の意見を調整し、事業開始に向けた動きをスピードアップするよう申し入れを行ないました。今後、「要綱策定委員会」メンバーの各区に対しても要求行動を行なっていく予定です。

全都実は6月24日に渋谷区新橋区民会館でこのかんの闘いを中間総括する集会を開催します。国が自治体の「自立支援事業」に財政援助をすると決定したこと（国の「対策案」自体は問題の多いものですが）も追い風にし

ながら、全都実は都区に対して「待たない」で事業の実現を迫っていきます。

右翼団体経営の ケタオチ「宿泊所」を許さない！

行政による「自立支援センター」設置がもたついているのをあざ笑うかのように、「日本人権連合会」(N・J・R)と称する背後関係不明の右翼政治団体が東京都内に次々に「宿泊所」(現在6ヶ所)を設置し、野宿者を囲いこんでは生活保護費をピンハネする、という悪質な「福祉サギ」を行っており、現在、これが大きな問題となっています。

彼らは新宿でも4月に「マリクラブ神楽坂寮」という「宿泊所」を開設し、新宿の仲間に声をかけ始めました。その手口は以下のようなものです。

- ・中央公園などで「生活保護をとってやる」と声をかけ、「宿泊所」に連れ込んで契約書にサインをさせる。
- ・新宿区福祉事務所に生活保護申請を行ない、保護が認められると、その中から月11万以上を「宿泊費」「食費」などの名目でピンハネする。
- ・生活保護適用にならなかった仲間は金にならないので追い出す。

新宿連絡会は彼らの活動を察知するとすぐに仲間達に対してだまされないよう警戒を呼びかけました。そしてだまされて入った仲間からの情報提供で以下のような「宿泊所」内部の実態が明らかになったのです。

- ・事務所ビルの部屋に二段ベッドをつめこみ、または大部屋に大勢を雑魚寝させただけの居住環境で月54000円もの「宿泊費」を福祉事務所から直接払わせる。
- ・「宿泊費」のほかに「食費」「水光熱費」として月約6万円を徴収する。しかも食事は朝と晩のみ(日曜は朝のみ)で、その内容もご飯と味噌汁に一品程度のもの。入寮者はみんな腹をすかせているが、上記に加え「布団代」などの名目でお金をとられ、手元にはほとんど残らないため、我慢しているしかない。
- ・右翼団体の関係者が監視しているため、こわく

て外出もできず、入寮者同士の会話も自由にできない 雰囲気。病院の通院予約日に職員に「行く必要がない！」と恫喝され、治療を中断せざるをえなかった人もいる。

この実態を知った連絡会はただちに東京都、新宿区に抗議行動を始めました。東京都福祉局は、彼らの「宿泊所」経営が届け出制である「第二種社会福祉事業」であることから「手続き的に問題がないので何もできない」と居直っていました。新宿区はこの「宿泊所」の使用に慎重な姿勢を示しながらも、「都が認めている以上、宿泊枠が少ない現状のなかで使わざるをえない場合もある」という弱気な態度をとっていました。

連絡会は、都庁前・新宿区役所前のピラまきを繰り返し、「宿泊所」の劣悪な実態を暴露し続けました。そして東京都に対しては5/14、6/11に、新宿区に対しては6/4、6/18にこの問題に限定した交渉を行ない、被害を受けた仲間を先頭に、このようなデタラメな「宿泊所」を認めるな！という声をぶつけてきました。その甲斐もあって現在では東京都も新宿区もこの「宿泊所」の問題性を認め、「日本人権連合会」に対する「指導」を行ない、手配活動の中止、「宿泊所」の定員の削減、食事の改善、管理の緩和などを「改善」させたと言っています。しかし、仲間を食い物にしようという彼らの本質が変わったとは考えられません。新宿連絡会は引き続き彼らに対する監視の目をゆるめず、行政に対して、このようなケタオチ業者を許すな！という声を上げていきたいと思えます。

ぜひ、読者の皆さんからもこの問題に関して行政に抗議の声を上げていただきたいと思えます。よろしく願いいたします。

★抗議先★

東京都福祉局保護課

直通 03 (5320) 4061

新宿区生活福祉部

代表 03 (3209) 1111

国の「対策案」徹底批判

政府と大都市自治体からなる「ホームレス問題連絡会議」が5月、「ホームレス問題に対する当面の対応策について」を発表しました。そのなかで明らかになった「ホームレス対策」の基本姿勢とは、「ホームレス」を(1)勤労意欲はあるが仕事がなく失業状態にある者、(2)医療、福祉等の援護が必要な者、(3)社会生活を拒否する者の3類型に分類し、(1)には「就労による自立を支援」、(2)には「福祉等の援護による自立を支援」、(3)には「社会的自立を支援しつつ、施設管理者による退去指導」をおこなう、というものです。

このあまりに粗雑な議論に対して徹底した批判をおこなうため、新宿連絡会は以下のような「声明」を発表しました。

ホームレス問題連絡会議「当面の対応策について」に対する見解

いわゆる「ホームレス問題」について、内閣官房内閣内政審議室が中心となり、五つの関係中央省庁及び六つの関係自治体が本年2月より「ホームレス問題連絡会議」を開催し、その議論のとりまとめが「ホームレス問題に対する当面の対応策について」（以下「当面の対応策」と呼ぶ）として、先月5月26日に公表された。

90年代に入りとりわけ顕著となった大都市における野宿者の急増という状態に対し、これまで、その対応は主に関係自治体の役割とされ、生活保護法適用や応急援護、高齢者就労対策や自立支援事業などが、地域的、部分的に実施され、他方においては、東京都、名古屋市、大阪市による定住野宿者に対する強制排除が規模や手続きの差がありながらも強行されて来た。しかし、いかなる策を講じても野宿者を社会から消し去ることは出来ず、逆にその数は急増し続け、もはや一自治体の手には負えない状態となっている。が、これまで中央省庁は、自治体サイドからの様々な要望があつたにもかかわらず、見て見ぬふりを続け、この問題については一切の責

任を取ろうともしなかった。

問題はもはや解決不能と思われる泥沼状態となり、自治体の要望が悲鳴のように激しくなった末、今年に入りようやく中央省庁が重い腰を上げた訳である。「ホームレス問題」に対する考え方の問題はあるものの、中央省庁が「ホームレス問題」を大都市が克服すべき課題としてようやく認識するに至ったことは、私たちも正当に評価したい。いかに世間を知らない官僚達ですら、ようやく私たち野宿者の存在は無視できはしないと思い始めた事は、何と言おうとも、これは正しい認識の仕方である。が、皮肉な見方をすれば、この時期に至ってようやく動き出した中央省庁の鈍重な動きを見ていると、いかに、中央省庁の視線が世の中の現実に向かい合っていないかを証明している。こんな簡単な事を気付くのに何故これほどまでの年月が必要としたのだろうか？その間に一体幾百名の仲間が路上で亡くなっただろうか？まさしく、気が付くに遅すぎたのである。

私たちは中央省庁がようやく重い腰をあげたからと言って、財政支援を受けられる関係自治体のように手放しでは喜ばない。もちろん、私たちが要求している自立支援センター建設には追い風にはなるだろうし、その点で自治体（とりわけ東京都）は中央省庁の財政支援を受けながら、既に3年前に策定されている「路上生活者対策」の推進を強力に図るべきである。私たちにとってみれば、センターの建設費がどこから出ようが関係がなく、私たちが安心して利用できる「路上から脱せられる施策」を自治体が責任をもってやって行くのなら、それに越した事はない。何せ、私たちは何年も待たされ続けているのだ。

「路上から脱せられる諸施策」を暗黒の路上に配置する事は今からでも遅くはない。それは、もはや泥沼化した全体からすれば微々たる成果しかもたらさないだろうが、私たちにとって利用価値があり、可能性があるものならば、それは、幾つでも作り出すべきである。そのために自治体は中央省庁からの財政支援を最大限活用すべきであろう。

その点においての中央省庁の働きを私たちは全面的に否定するものではないが、しかし彼等が発表した「当面の対応策」については、一点の評価も持ち得ない。世間知らずというのは、本当に恐ろしい事である。現実を無視した政治的「処方箋」ほど危険なものはない。その代表がこの「当面の対応策」であろう。ここまで放置して来た問題をよくぞここまで単純化できると関心するばかりの作文であり、本気になってこの問題に取り組もうという気概すらない駄文である。

その前提からして、血の通うさまざまな複雑な要因で野宿生活を余儀なくされている人々をばっさりと三類型化し、「良いホームレス」「保護すべきホームレス」「悪いホームレス」と安易にレッテルを貼り、そこから、「自立支援事業」と「生活保護」と「退去指導」という対応策を直線的に導きだすという単純極まりない発想。そんな小学生じみた発想でこの問題が解決するのなら、これまで関係自治体が頭を悩ますこともなかったであろう。一体何を会議の中で議論して来たのであろうか？そもそもこの程度のことだったら、東京都レベルにおいてもこれまで議論されつくされており、今さら中央省庁が出すべきものでもなんでもない。

この現実離れしたすこぶる単純で安易な上からの発想は、現実の苦闘を経ながら生き抜いている野宿者のニーズにすら対応できない事は明確である。その施策内容の実効性云々と言う以前の問題である。「悪いホームレス」に「退去指導」＝強制排除をすれば、どういう結果となるのかという事もまた、東京都の事例においては明らかであり、その教訓

すら分かっていないこの「当面の対応策」を額面通りに読めば、強制排除と収容策（自立支援と生活保護）を上から押しつけるとしか読めず、野宿が社会悪であるという前提に立った、野宿者の人格権を否定する発想を基本としている。ここには、問題を抱えた人々の苦悩などまるでなく、「ホームレス」は上から「解消」出来ると正直に思っている世間知らずの官僚の奢りが、最後の強権発動手段＝強制排除という手法と共に脈打っている。無論、こんなものが現実の問題に通用する筈がない事は、いずれ彼等にも認識される日があるだろうが、路上に生きる私たちへの想像力もなく、私たちの人格を無視した問題の立て方しか出来ないのであれば、中央省庁が打ち出した「施策方針」も当面は高が知れているでだろう。

無論、下からの視点は、私たちが提起するしかない。それは、「当面の対応策」を受け、自治体が打ち出す「諸施策」との関連において自ずと明らかになるであろう。強制排除をするのであればその抵抗闘争として、自立支援事業を行なうのであれば窓口闘争や寮内改善闘争として、私たちは私たちの主張を机上の論理ではなく、現場で貫き通す。その時、中央省庁の官僚は本当の意味の「ホームレス問題」に今度は気が付くであろう。野宿者を安易に生み出す今日の歪んだ社会構造こそが問題であることに。

以上。

1999年6月

新宿連絡会

話題沸騰！ 朝日新聞社説（6/21付）でも取り上げられた、
「路上」に心を寄せる全ての人に贈る一冊！

「路上からの提言」 - 「路上生活者問題」に関する私たちの見解と政策提言 -

野宿の当事者は何を求めているのか、あるべき「対策」の姿とは何か…
連絡会5年間の闘いの現場から生まれた「提言」！ A4版70ページ 好評発売中！

ご希望の方は「提言 ○冊」と明記の上、郵便振込口座 00170-1-723682 「新宿連絡会」
あてに下記の代金をお振り込みください。入金を確認し次第、郵送いたします。
代金（送料込み）：1～5冊の場合、900円×冊数、5冊以上の場合、800円×冊数+500円

5、6月の医療相談

新宿連絡会医療班では、毎月第2日曜日、新宿中央公園ポケットパークでボランティアの医師による医療相談を行なっています。

5、6月の医療相談の結果は以下のとおりです。

紹介状を書いてもらった人には翌日の福祉行動（新宿区福祉事務所での生活保護集団申請）への参加を呼びかけています。

5/9 医療相談

受診：37人

紹介状を書いた人：20人

6/14 医療相談

受診：38人

紹介状を書いた人：15人

また医療相談に並行してボランティアの鍼灸師による鍼灸治療も行なっており、こちらも好評です。毎回、4-6人が治療を受けています。

次回医療相談の予定は7/11（日）午後7時から新宿中央公園ポケットパークです。（雨天時は都庁第一庁舎わき橋の下）

1998年医療相談活動記録

このたび1998年一年間の医療相談活動の記録をまとめました。その結果は以下のとおりです。

*受診者総数：266名（うち女性9名）

*紹介状を出した人

総数：140

うち翌日、病院を受診した人：85

うち入院：9

*平均年齢：51.6歳

*主訴・受診時病名（述べ数、複数例有）

<主な病名>

感冒・上気道炎：63

高血圧：37

上腹部痛・胃潰瘍疑い：35

関節痛・関節炎：20

腰痛：16

知覚障害：16

上下肢浮腫：10

湿疹：10

<疾病分類>

呼吸器系：80

消火器系：67

循環器系：51

内分泌系：7

肝・胆道系：1

脳血管系：7

外傷・創：19

整形外科：74

皮膚科：31

耳鼻科：11

眼科：9

精神科：6

歯科：12

その他：30

*聞き取った既往症

<主な病名>

高血圧：29

胃潰瘍：21

結核：17

骨折：16

肝硬変・肝障害：14

糖尿病：13

アルコール依存症：10

テレカカンパのお礼とお願い

前号で、病気で入院した仲間との連絡用にテレフォンカードのカンパを呼びかけたところ、二十枚近いカードが集まりました。ご協力ありがとうございました。大切に使用いただいています。誠に恐縮ですが、引き続きご協力をお願いいたします。途中まで使用したもので構いませんので、余ったテレフォンカードがお手元にありましたら、山谷労働者福祉会館気付「新宿連絡会医療班」あてにお送りください。

活動日誌 99/4/25～6/24

- 4/25 (日) 炊き出し、音楽演奏会
新宿医療パトロール (686)
- 4/26 (月) 福祉行動 (6)
- 4/28 (水) 高田馬場パトロール
全都実池袋パトロール (204)
- 4/30 (金) 全都実東京駅パトロール
- 5/1 (土) 全都野宿労働者統一メーデー集
会・デモ (630)
- 5/2 (日) 炊き出し
新宿パトロール (727)
- 5/5 (水) 高田馬場パトロール
全都実池袋パトロール (260)
- 5/6 (木) 福祉行動 (7)
- 5/7 (金) 全都実東京駅パトロール
- 5/8 (土) 上野一時保護所面会
- 5/9 (日) 炊き出し、医療相談
新宿パトロール (715)
- 5/10 (月) 福祉行動 (18、ウチ入院3)
新宿区に要望書提出
- 5/12 (水) 高田馬場パトロール
全都実池袋パトロール (239)
- 5/14 (金) 都庁前ピラまき
都福祉局に要望書提出
- 5/15 (土) 夏まつり準備寄り合い
- 5/16 (日) 炊き出し
新宿パトロール (706)
- 5/17 (月) 福祉行動 (4、ウチ入院1)
- 5/19 (水) 高田馬場パトロール
全都実池袋パトロール (240)
- 5/21 (金) 都庁前ピラまき行動
- 5/22 (土) 上野一時保護所面会
- 5/23 (日) 炊き出し
新宿医療パトロール (796)
- 5/24 (月) 福祉行動 (6、ウチ入院1)
- 5/26 (水) 高田馬場パトロール
全都実池袋パトロール (220)
- 5/27 (木) 戸山公園清掃監視
全都実台東区交渉 (200)
- 5/28 (金) 全都実都庁行動 (200)
- 5/29 (土) 夏まつり準備寄り合い
- 5/30 (日) 炊き出し、音楽演奏会
新宿パトロール (741)
- 5/31 (月) 福祉行動 (4、ウチ入院1)
- 6/2 (水) 高田馬場パトロール
全都実池袋パトロール (201)
- 6/3 (木) 都庁前ピラまき行動
- 6/4 (金) 新宿区団体交渉 (120)
東京駅パトロール
- 6/5 (土) 上野一時保護所面会
- 6/6 (日) 炊き出し
新宿パトロール (707)
- 6/7 (月) 福祉行動 (5、ウチ入院1)
- 6/9 (水) 高田馬場パトロール
全都実池袋パトロール (218)
- 6/10 (木) 都庁前ピラまき
- 6/11 (金) 全都実台東区交渉 (200)
東京都代表者交渉
- 6/12 (土) 夏まつり準備寄り合い
- 6/13 (日) 炊き出し、医療相談
新宿パトロール (703)
- 6/14 (月) 福祉行動 (18、ウチ入院1)
- 6/16 (水) 高田馬場パトロール
全都実池袋寄り合い (88) ・
パトロール (213)
- 6/17 (木) 全都実練馬区交渉
- 6/18 (金) 新宿区団体交渉 (110)
- 6/19 (土) 上野一時保護所面会
- 6/20 (日) 炊き出し
新宿パトロール (756)
- 6/21 (月) 福祉行動 (4)
- 6/23 (水) 高田馬場パトロール
全都実池袋パトロール
- 6/24 (木) 全都野宿労働者総決起集会

*パトロールの後の括弧内の数は、路上で出会った仲間の人数。行動の後の括弧内の数は行動参加者の人数です。

*毎週日曜夜6時半からの新宿中央公園での炊き出しでは、毎回700～800食の炊き込みご飯が出ています。5月以降、仲間の数が増え、米代もかさんできております。ぜひ、カンパのご協力をお願いいたします。

第6回新宿夏まつり

8/8 (日)、14 (土) 新宿中央公園ポケットパークにて
 8/15 (日) 新宿中央公園ちびっこ広場にて
 新宿駅西口より徒歩15分、時間はいずれも昼から夜にかけて

今年も夏まつりの季節がやってきました。今年の夏まつりは、例年以上に「野宿の仲間の、仲間による、仲間のための祭り」をめざして、現在、鋭意準備中です。期間も拡大し、仲間による演劇や仮装行列、手作りのお神輿やはっぴも登場する予定です。

是非、多くの方々に第6回新宿夏まつりへのご支援とご協力をお願いいたします。

夏まつり賛同カンパをお願いします。

カンパ送り先：郵便振替口座 00170-1-723682「新宿連絡会」あて

「夏まつり賛同金」と明記の上、お振り込みください。一口2000円です。

また石鹸、タオル、Tシャツ、うちわのカンパもお願いします。Tシャツ（できれば無地がベター）とうちわは、仲間の手により「夏まつりオリジナル仕様」に仕立てられる予定です。

下記住所までお送りください。

第6回新宿夏まつり実行委員会

〒160-0015 東京都新宿区大京町3新大京マンション304号「スペースかぼす」気付
 TEL 03-5367-5666 (稲葉呼出) / 070-5072-7788 (野本) FAX 03-5367-5667

「露宿」発刊！ 定期購読のお願い

新宿連絡会は「路上文芸総合雑誌 露宿」をあらたに発刊しました。野宿の仲間自身による投稿を軸にすえた全く新しい文芸誌です。(一冊500円) ぜひ定期購読をお願いいたします。

通信購読会員(年会費5000円)になられた方には隔月で「露宿」とこのNEWSをお送りします。また、新宿連絡会の活動への夏期一時金カンパにもご協力ください。(送り先は下記)

<新宿連絡会 99年4-5月期会計報告>

《収入の部》

郵便振替カンパ	38口	470,540
通信会員費	8口	40,000
通信売上		27,800
政策提言売上		42,300
個人、団体カンパ		34,181

(小計) 614,821

前期繰越金 731,232

返済金 435,000

合計 1,781,053

☆カンパ・通信購読会費送り先☆

郵便振替口座 00170-1-723682

「新宿連絡会」あて

《支出の部》

炊事関連費	461,483
交通費	280,740
印刷代	51,088
コピー・DPE費	22,280
文具・図書費	10,696
発送費	71,680
倉庫家賃・水道光熱費	89,392
電話代	36,125
薬医療関連費	8,732
備品	21,000
使用料	2,000
雑費	8,165
謝礼金	5,000
池袋活動費	98,000
全都実分担金	41,561

(小計) 1,207,942

貸し付け金 275,074

次期繰越金 298,037